

2024年度 高等学院同窓会学術研究奨励金
研究成果報告書概要 (WEB 公開用)高等学院長
高等学院同窓会理事長 殿

研究代表者氏名 [松林 岳広]

学年・組・番号 [3年 H組 22番]

研究課題: LRT 開業によるまちづくり
—先例の富山市から宇都宮市にどう活かせるか—(英文) Urban Development through the Opening of LRT (Light Rail Transit)
—How to Apply Lessons from Toyama City to Utsunomiya City—

研究概要:

(研究課題を選んだ動機、達成するための計画・目的・方法等について 200~400 字で記入してください)

このテーマを選んだ動機は、地方都市のまちづくりに興味があったからである。地方都市の衰退も懸念される中、小さい時から鉄道が好きなこともあり、交通インフラの視点から探求を目指した。

夏休みを利用して、宇都宮市と富山市を訪ねる。宇都宮市は 2023 年にまちづくりの理想に向けて LRT (Light Rail Transit) を開業した都市である。富山市は、都市の中心部に人々を集める「コンパクトシティ」戦略を採用し、日本で初めて本格的な LRT を導入した都市である。これらの都市で実際に乗車し、LRT を肌で感じ、地元の担当者や LRT 利用者にインタビューすることで地方都市のまちづくりを考える。

LRT が高齢化社会の課題解決に貢献できるか、住民の視点や、経済効果、環境への影響についても調査する。利便性だけでなく、一般道路で車と並走することによる事故への対策も追求する。また、富山の事例を宇都宮にどう活かせるかを調査する。

研究成果:

(研究の結果概要、結果に対するフィードバックや感想等について 200~400 字で記入してください)

実際に宇都宮と富山を訪れて、詳しく話を聞くことができた。宇都宮では軌道の横を走ってみて、接触事故は車側の不注意によるものだと理解できた。独自の交通系 IC カードを地域住民に配布し、LRT 利用促進だけでなく、現金決済による列車遅延を解決していた。開業により、遅延が慢性化していたバスから LRT へ乗り換えたと話す人もいた。途中駅での公共交通機関やマイカーへの乗換施設が充実していたのが印象深い。沿線の利用者にとって利便性が向上していることが実感できた。しかし、LRT の運行は宇都宮駅の東側に留まっており、西側の開業や直通運転が期待されていることを市の担当者から伺えた。

LRT による南北直通を果たした富山市では、駅を跨いだ目的地へのアクセスがより向上していることを実感できた。また、富山市交通政策課の方から、LRT の開業により高齢者の外出頻度が増加したことや、現在の課題、展望について伺うことができた。

研究者: (以下の、代表者・分担者は学年・組・氏名を明記する)

研究代表者 松林 岳広 3年 H組 22番

研究分担者

担当教諭 本木 弘悌 先生

(受給額: 26,000 円)

※研究課題、研究概要、研究成果、研究代表者名が WEB ページ上で公開されることに同意します
(次のページに続きます)

研究成果写真：

(研究過程がわかる写真や、研究結果がわかる写真などを数点貼り付けてください)



宇都宮ライトレール株式会社本社



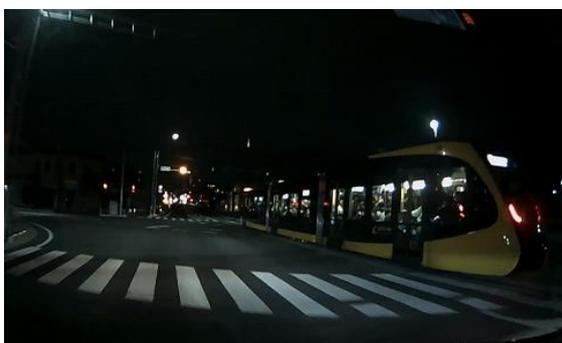
宮 LRT 広報担当者打合せ



宇都宮 LRT 運転士インタビュー



宇都宮 LRT 終点電停で利用者インタビュー



宇都宮 LRT の道路並走



富山市役所職員インタビュー宇都



富山駅 JR 駅 1 階にある LRT 電停



複数路線の富山 LRT

以上